

新生元年予算

平成24年第1回市議会定例会が3月6日から23日まで、18日間の会期で開かれ、議案34件などを審議しました。議会初日に行われた市長の施政方針と行政報告のあらましは、次のとおりです。

3月定例会

市長施政方針要約

つくばみらい市は今年、誕生して7年目を迎えます。24年度は、私が政策ビジョンとして掲げる「子どもたちに誇れるまちづくり」に向けて、市の持つポテンシャルを最大限に引き出す、新たなステージの始まりの年と位置付けました。

全国的な人口減少や少子高齢化の進行、経済も情報ももたらゆるものがグローバル化する時代の中で、つくばみらい市の豊かな環境を守り、そして後世に残していくこそが、次代

を担う子どもたちが誇れるまちとなるのではないでしょうか。

そのためにも、首都圏および全国のさまざまなニーズや時代のニーズをいち早く察知し、市の持つポテンシャルを最大限に引き出すまちづくりを進め、市民・事業者・行政が知恵と力を出し合い、緊密な連携を図り、さまざまな行政課題に積極・果敢に取り組んでいく必要があります。

このようなことから、私は本来、25年度から始まる後期基本計画を、時代の流れに対してスピード感をもって対応するために、今回、1年前倒しでローリングを行い、24年度から新たに新基本計画としてスタートいたします。

この新基本計画における大きな施策目標は、『みらい』を担う子どもたちに誇れるまちに向けて。この大きな目標実現に向け、展開する施策・事業を横断的にまとめ、24年度からの6カ年間で重点的に行う施策を、4つの重点施策として位置付けました。

行きたくなる、住みたくなるまちをつくらう

「知りたい」から「訪れたい」「行きたい」へ、そして「進出したい・暮らしたい・住みたい」につながるまちづくりに取り組み、先進的な取り組みを最大限に活かしながら、これまで蓄積されてきた優れた資源を活かし、人や企業を引きつける都市としての魅力、優位性を確立していきます。

市には南北に縦断する広域道路・常磐自動車道があります。この広域道路へのアクセス性の向上を図るために、谷和原インターチェンジから谷田部インターチェンジ間へのスマートインターチェンジ設置の検討を、引き続き行ってまいります。

企業誘致については、当市の地理的優位性などを積極的にアピールするとともに、23年度からスタートした市の雇用促進奨励金制度をフルに活用して、企業誘致に努めるとともに、市民の雇用促進に努めてまいります。安心・安全で付加価値の高い農産物などのブランド化を促進するとともに、観光PR事業や

フィルムコミッション推進事業を推進し、市の魅力・実力を発信してまいります。

4月からは、市組織の機構改革により「市民サポート課」が誕生します。今後は、市民サポート課が中心となり、市内定住促進のための市民交流事業などを行ってまいります。特に、23年度からス

子どもも大人も高齢者もうれしい、誰もが便利に感じるまちをつくらう

安心して便利な生活道路や公共交通網の充実、地域で買い物ができる場所の充実、子育て家庭も不自由なく暮らせる環境の充実、高齢者でも暮らしやすい環境の充実に努め、誰もが安心して便利に暮らせる「まちづくり」に取り組みます。

私は常々、「歩道のない道路は道路ではない」と申しております。子どもたち、お年寄りなど交通弱者が安全で快適な市民生活を送るには、歩道は、無くてはならない施設の一つです。市内全域で計画的な歩道整備を進めるため、新たに歩道整備計画を策定いたします。

スタートした「嫁に來ないか事業」については、市内で市民交流活動を行っている市民団体と、より連携を図りながら、積極的に事業展開してまいります。

また、みらい平地区のコミュニティ醸成の拠点を担う新たなコミュニティセンター整備に向けても、実施設計など具体的な作業に入っております。

また、公共交通網の整備についても、引き続きデマンド交通について、検討を進めていくなど、日常生活の主要な動線として機能する生活道路や、公共交通の整備に関する事業を、計画的に実施してまいります。

ライフスタイルの多様化に適した子育て支援策の向上を図るため、放課後児童クラブや子育て支援室の充実や、保育所、幼稚園などのよりよい保育環境、教育環境の向上に努めてまいります。

みらい平地区の保育ニーズに対応するための民間活力を導入した保育所については、この3



平成24年第1回定例会で施政方針を述べる片庭市長